

# なぎさ NEWS



## 西なぎさで探そう！ いろんな生き物



岩の間に頭を突っ込んで何をさがしているかという、このカニです→



カクベンケイガニ

おおしお 大潮で潮が大きく引く4月15日と5月2日、「西なぎさ」で生き物調査を行いました。この調査は干潟を歩きながら生き物を探し、いつ、どこで、なにが、どのぐらい、どのようにいたかを、ひたすら記録していくというものです。一時休止していた時期もありますが、2003年から定期的に実施してきました。調査では、泥を掘ったり、しおだまりを網でさらったり、岩場をはいずりまわったり、カキ殻の隙間をひとつひとつのぞいたり、とにかくいろいろな方法で生き物を探します。何人も大人がズボンをぬらし生き物を探している様子は傍からみると奇異にみえるかもしれません。両日とも40種以上もの生き物が観察されました。この調査のねらいは「西なぎさ」の環境や生き物の変化を記録することと、もう一つ、わたしたち水族園スタッフが地先の海である「西なぎさ」を実際に見て、よく知ることにあります。この調査で発見したことを、さまざまな教育普及活動をとおして、皆さんに伝えていきたいと思います。(教育普及係 天野 未知)

## アカエイに刺されると…

海に出かけるのが楽しい季節がもうすぐやってきます。しかし、毒を持っている生き物には気をつけなくてははいけません。と、言っている私が、恥ずかしいことに実は痛い目にあったのです。「西なぎさ」で青潮のために打ち寄せられたアカエイを採集していたときです。アカエイを踏みつけないように、すり足でゆっくりと進んでいましたが、不注意で右足を大きく踏み出していました。するとニルツとした感触と同時に、「ドスンッ」と右足の甲に鈍いながらも鋭い衝撃を受けました。すぐに水から上がって足を見ると、甲が腫れ上がり出血していました。アカエイの尾にあるトゲが、胴長のゴムを突き抜けて刺さったのです。すぐにズキンズキンと激しい痛みで襲われ、病院にむかいました。以前漁師さんから「刺されても2時間で痛みは消える」と聞いていましたが、本当に2時間ほどで痛みはおさまりました。アカエイは身を守っただけなので、うらむことはできませんが、ひどい目にあいました。もし刺されたときは、ショック症状などを起こすことがありますので、すぐに病院で診察を受けることをお勧めします。(飼育展示係 雨宮 健太郎)



アカエイは「西なぎさ」でよく観察されます。危険がせまると、トゲを向けるように長い尾を立てます。

## なぎさ 生き物ミニ情報

水族園は「西なぎさ」と「東なぎさ」で、さまざまな調査を行っています。今回は、3月と4月に行った地曳網調査の結果とユニークなカニ、マメコブシガニについてお伝えします。

### ●地曳網調査の結果

**3月:** 水温は8℃でした。スズキやイシガレイの稚魚やニホンイサザアミといった、例年、春に観察される生き物が採集されました。

**4月:** 水温は19℃と、とても暖かくなりました。波打ち際にはハゼ類やスズキ、ボラの稚魚などが見られました。イシガレイの稚魚は3月の調査時より成長しており、全長約7cmのものもとれました。

### ●こんな生き物を観察してみよう 「マメコブシガニの技」

潮がひいた干潟には、海底のくぼみに海水のしおだまりができます。そのなかに、丸い甲羅と、長いさみ脚を持った小型のカニが、無防備に歩いていることがあります。そのカニの名前はマメコブシガニ。見つけたら、次はこのカニの技を見てみましょう。カニは横歩きをするイメージがありますが、マメコブシガニは正面に向かって前進することができます。また危険を感じると脚をたたみ、「死んだフリ」をします。砂や泥のなかにもぐって隠れていることもあるので、見つけたらちょっとラッキーなマメコブシガニ。しおだまりを見つけたら、そおっとのぞいてみてくださいね。(教育普及係 宮崎 寧子)